

**柳 美智子『今必要なキャリア教育とは何か』**

全ての大学生にとって、卒業後の進路は最大の課題でしょう。卒業後に就職する学生が圧倒的に多いわけですが、どのような職業を選択するか、業界や企業、職種はどうするか。そのために必要な資格や経験は何か。そもそも自分の将来の夢は何だったのか。等々。

比較的早くから自分の将来像をしっかりと持っている人もいれば、進路をなかなか決められずに就職活動で模索を続ける人もいるでしょうが、必ずしも希望通りに進路を決められるとも限りません。昨年頃から都市部では就職状況が学生に有利になってきたと言われていますが、フリーター人口の増加・平均年齢の上昇や、派遣社員の急増、早期離職者の高い割合などを考えると、大学生の就職は依然として深刻な課題が山積しており、これから社会に踏み出そうとする学生の不安はさぞ大きいことでしょう。明治大学を含め全国の大学ではキャリア教育について力を入れ始めていますが、いかなるキャリア教育が必要とされているのか、大学関係者は真剣に考えなければならないと思います。

筆者の柳さんは、自分の体験をもとに卒業論文でキャリア教育をテーマに選びました。「おわりに」には、筆者の素直な気持ちがつづられています。「筆者が論文作成でキャリア教育を選んだ第一の理由は、筆者自身が高校時代に進路を決めることで悩んでいたということです」(38ページ)。論文を書くうえで、自らの原体験が大きな動機(ばね)になることがあります。原体験において感じた素朴な疑問を心の中でだいにじにしてほしいと思います。考えに迷ったら、いつでも最初の疑問に立ち帰れるのですから。この論文は、随所に筆者の思いがつづられていて、等身大で親しみと共感の持てる文章です。

大学進学と就職活動を経験した人なら、きっと共感できると思いますが、筆者の場合は自分自身の問題にとどめておかず、キャリア教育がいま日本でどのように行われているのか、そこにはいかなる課題があるのか?と、関心を普遍化させました。この論文でユニークなところは、キャリア教育のなかでも中学・高校での授業実践に焦点を当てていることです。むろん大学でのキャリア教育が無意味だというわけではないでしょうが、「中学・高校の時点でその道を初めから選んでいけば、もっと効率よく進路を選べたのではないか」(16ページ)という問題意識があったため、その点は評者の私も全く同意見です。

中学・高校におけるキャリア教育の事例として、「よのなか科」で有名な杉並区和田中学校や、町田市の中学校で行われている職業体験、あるいは総合高校や商業高校で行われている職業教育など、実にさまざまな事例が紹介されていて、よく調べたなと思います。

ただ、こうした先進的なキャリア教育の実践は、受験勉強中心の風潮のなかで、全体から見ればまだ少数にとどまっているのではないのでしょうか。今後解決すべき課題は大きいといえましょう。

筆者はキャリア教育の政策や実践事例を通して、キャリア教育には「職業意識の形成」「進路選択の指導」「人間関係の構築」「雇用形態の現状を学ぶ」の4要素が必要とされていることを示しました。キャリア教育に必要な4要素を析出したということは、たいへん価値の高い成果だと思います。